



令和3年度SIP第2期 課題評価結果

令和4年3月3日

ガバニングボード決定

令和3年度 SIP 第2期課題評価結果

課題名	スマート物流サービス
PD名 (※敬称略)	田中 従雅

I. 評価意見の概要

物流のデジタル化・効率化は日本の大きな課題であり、物流クライシスの回避は、日本全体で取り組む課題。本課題の進展に期待する。

成果を適用する物流製品の分野によって実証に入る時期に多少の違いはあるが、順調に進捗している。一方、全体スルーした成果がどれほど出るかという視点では多少心配な面がある。

各業界の物流データの連携が鍵であるが、物流・商流データ基盤の実装、多くの荷主データを連携する取組が十分でない。SIP 終了後のデータ基盤の担い手が十分検討されていない。

総合評価

A

II. 主な評価意見 (下線は最終年度において更なる取組が期待される点)

【意義】

- 物流のデジタル化・効率化は日本の大きな課題であり、物流クライシスの回避は、日本全体で取り組む課題である。
- 新規の物流・商流データ基盤を開発し、ここに多くの各業種等物流・商流データ基盤を乗せて効率化を図る試みは画期的である。
- 1年遅れでのスタートであるので、他の課題よりマネジメントは苦労があるが、実装に向けての努力に期待。

【研究開発の進捗】

- 地球温暖化対策への効果等、定量的な評価をしており、他のプログラムと比較して、波及効果にも視点が置かれている。
- 成果を適用する物流製品の分野によって実証に入る時期に多少の違いはあるが、順調に進捗している。一方、全体スルーした成果がどれほど出るかという視点では多少心配な面がある。

【社会実装に向けた取組】

- 課題を持っている事業者が開発当初からその解決に向けた努力をしており、社会実装の確度は高いと考える。
- 一方、社会実装に至る道筋として、SIP 終了後にどのような展開を図るかを具体的に明確にして、あと1年で体制を固めておくことが必要である。
- 各業界の物流データの連携が鍵であるが、物流・商流データ基盤の実装、多くの荷主データを連携する取組が十分でない。SIP 終了後のデータ基盤の担い手が十分検討されていない。
- 各業種等物流・商流データ基盤がバラバラで動いている感がある。新規参加者増加や他の物流分野への拡張に対する取組方針と体制構築は重要。
- データ連携について、技術的には分野間データ連携、社会実装的には WAGRI との連携が重要であり、SIP 終了までにその方向性を明確にする必要がある。
- 知財戦略については、検討が十分進んでいないように見受けられる。

【ベンチマーク調査、効果測定】

- プロジェクト全般を通じて、CO2 削減とトレーサビリティ強化にどのような効果が期待できるかについても、より具体的に示す必要がある。
- データ基盤の構築活動が日本は必ずしも先行していない。取組姿勢の比較から入るべきではないか。

【ピアレビュー】

- ピアレビューについては全体課題並びに全てのサブテーマにきめ細かにコメントが示されている。今後も引き続き充実したピアレビューを期待する。

(以 上)

図 1 : 第 2 期課題評価のランク付け

評価	標語
S	<u>極めて挑戦的な高度な目標を達成し、実用化・事業化も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。</u>
AA	<u>適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、想定以上の成果が得られている。</u>
A+	<u>適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。</u>
A	目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、 <u>当初予定どおりの成果が得られている。</u>
A-	目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、 <u>予定を下回る成果となっている。</u>
B+	目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、 <u>予定を大幅に下回る成果となっている。</u>
B	目標の設定、その達成状況その他大きな改善を要する面がみられる。

図 2 : 次年度予算への反映¹

評価	前年度当初予算比
S	+ 5 0 %以下
AA	+ 3 0 %以下
A+	+ 1 0 %以下
A	0 %以下
A-	▲ 1 0 %以下
B+	▲ 3 0 %以下
B	事業中止を検討

(出所) 第 8 6 回戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) ガバニングボード (平成 3 0 年 8 月 2 日) 決定 (抜粋)

¹ なお、高い評価を受けた場合でも、予算が十分確保できない場合には、増額できない場合があることに留意。

SIP 第 2 期課題評価 WG 委員名簿

◎座長

須藤 亮 内閣府政策参与・SIP プログラム統括

○委員

小豆畑 茂 元 株式会社日立製作所 フェロー

五十嵐 仁一 ENEOS 総研株式会社 代表取締役社長

江崎 浩 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授

岡崎 健 東京工業大学 エネルギー・情報卓越教育院 特命教授

小栗 久典 弁護士法人内田・鮫島法律事務所 パートナー弁護士

君嶋 祐子 慶應義塾大学 法学部・大学院法学研究科 教授

小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長

小向 太郎 中央大学 国際情報学部 教授

白井 俊明 元 横河電機株式会社 フェロー

竹中 章二 池上通信機株式会社 技術顧問

林 いづみ 桜坂法律事務所 弁護士

藤野 陽三 城西大学 学長

吉本 陽子 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 経済政策部 主席
研究員

(敬称略、五十音順)

評価 WG の審議実績

■令和 4 年 1 月 1 4 日 第 1 回会合

- 「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」
- 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」
- 「自動運転（システムとサービスの拡張）」

■令和 4 年 1 月 1 8 日 第 2 回会合

- 「AI ホスピタルによる高度診断・治療システム」
- 「革新的深海資源調査技術」
- 「スマート物流サービス」

■令和 4 年 1 月 2 1 日 第 3 回会合

- 「統合型材料開発システムによるマテリアル革命」
- 「光・量子を活用した Society 5.0 実現化技術」
- 「IoT 社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ」

■令和 4 年 1 月 2 4 日 第 4 回会合

- 「ビッグデータ・AI を活用したサイバー空間基盤技術」
- 「IoE 社会のエネルギーシステム」
- 「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」

■令和 4 年 2 月 1 日 第 5 回会合

- 評価結果とりまとめ